

2005年5月31日

セクター：機械

ミクロン精密株式会社(6159 JASDAQ)

自動車製造市況への依存度が大きいと考えられる

継続して業績が向上しているように見えるが、自動車製造市況に業績が左右されるウエイトが高いと想定される。北米・欧州での事業展開は開始したばかりであるため、今後の事業拡大に寄与する可能性はあり、また、日本国内の市況だけに左右されない体制作りが進められていることは評価できる。

ただ、こうした事業拡大部分が05.11期にいきなり寄与することを期待するには無理があり、当面は足元の04.11期EPS約100円をベースに株価形成されるのが妥当と考えられる。PER15倍とすると、約1,500円となる。

連結データ(左肩は対前年比(%)、02.11期以前は個別)

決算期	01/11	02/11	03/11	04/11
売上高(百万円)	1,886	2,824	3,640	4,190
		49.7%	28.9%	15.1%
営業利益(百万円)	-36	131	203	428
		-462.8%	55.3%	111.4%
経常利益(百万円)	-36	164	172	443
		-551.2%	5.0%	157.6%
当期利益(百万円)	11	136	9	267
		1095.2%	-93.3%	2821.6%
総資産(百万円)	5,102	5,166	5,394	6,087
純資産(百万円)	4,339	4,454	4,506	4,713
株主資本比率(%)	85.0%	86.2%	83.5%	77.4%
ROA(%、経常利益 [△] -入)	-0.7%	3.2%	3.2%	7.3%
ROE(%、当期利益 [△] -入)	0.3%	3.1%	0.2%	5.7%
発行済株式数(修正後、千株)	2,569	2,569	2,569	2,569
EPS(円/株)	4.4	53.0	3.6	103.8
BPS(円/株)	1,689.0	1,734.1	1,754.2	1,834.6
配当(円/株)	6	12	15	30

事業概要～主に自動車製造業界向けの工作機械の製造・販売

当社グループは、当社と子会社 2 社から構成されており、心なし研削盤(セントレスグラインダ)及び内面研削盤(インターナルグラインダ)と、その周辺装置の製造・販売を主たる業務としている。当社は同製品類の、開発・設計・製造・販売及びアフターサービスを一貫して実施している。子会社 MICRON-USA は北米で、子会社 Micron Europe は欧州で当社の製品・部品その他の販売を実施している。

* 心なし研削盤: 研削砥石・調整砥石及びブレードの 3 点支持により、主に丸棒やリング形状の素材の外周面に種々の加工を施す工作機械。

* 内面研削盤: 比較的小口径の研削砥石により、主に円筒及びリング形状の加工物の内周面に加工を施す工作機械。

収支の状況～ここまでは堅調に利益が増加しているが、今後の伸びは自動車製造市況次第

前ページに記載している 4 ヶ年の売上高の推移を見ると、每期急速に売上高が伸びているように見えるが、ここに記載していない 00.11 期以前にも売上高が単体で 300 億円以上となっている決算期がある。04.11 期は、自動車業界の設備投資が堅調に推移し、高い受注水準を確保出来たことが増収の主要因である。従って、経年的に業績が向上しているとするよりも、市況によって大きく売上高が変動する可能性があると考えたほうが良いと思われる。

とはいえ、足元の売上高は下記表 1 のように、好調に推移している。比較的销售ウエイトの小さい内面研削盤で大幅に売上高が増加していることはともかくとして、主力品目である心なし研削盤でも、大きな売上高増加率となっている。売上高の増加率ほどには営業費用も増加しておらず、順調な業績となっている。

【表 1 品目別販売実績(百万円)】

	04.11 期販売実績	前期比
心なし研削盤	3,250	+14.5%
内面研削盤	401	+30.9%
部品	493	+3.3%
その他	44	+125.4%
合計	4,189	+15.1%

所在地別セグメントでの経営成績を表 2 に記載している。03.11 期には営業赤字であった北米セグメントは翌 04.11 に利益率は低いものの、黒字化している。欧州セグメントは事業立ち上げ段階のために、足元は売上高がほとんど無く、営業赤字となっている。

【表 2 所在地セグメント別売上高と営業利益(百万円)】

	03.11 期			04.11 期		
	日本	北米	欧州	日本	北米	欧州
外部顧客向け売上高	3,121	518	--	3,297	891	0
営業利益	219	-3	--	430	33	-32
利益率	7.0%	--	--	13.0%	3.7%	--

当社の売上高のうち、トヨタグループ等に対する窓口している商社である(株)井高に対する売上が占める割合が高い。04.11 期で 16.8%、03.11 期で 24.4%となっている。井高とは、これまでに 20 年以上の期間の取引実績があり、特定顧客向けの売上高ウエイトが高いことに対するリスクは、足元では高くない。なお、井高を通じて販売された製品の最大のユーザーは、(株)デンソーとなっている。

03.11 期の当期利益額が小さく計上されているのは、研究開発費等に係る会計基準をこの決算期から採用し、過年度開発費 151 百万円を特別損失に計上したことによるもの。当社の場合は、以降の年次についても、営業費用の増減に占める研究開発費のウエイトが比較的高くなっている。

株式の状況～ストックオプション等の希薄化効果は無い

当社は、05 年 2 月に 1:10 の株式分割を実施し、05 年 5 月時点の発行済み株式数は、2,318,700 株となっている。今回の上場にあたっての公募が 250,000 株であるため、上場時点での想定発行済み株式数は、2,568,700 株とした。

ストックオプション等の株式の希薄化要素は無い。また、公募による手取り金の使途は、生産設備の更新等の設備投資に充当し、残額は運転資金に充当される予定。

情報開示の状況～今後はある程度の開示が期待できるか

当社HPには、既に投資家向け情報開示のページが設置されている。ただし、現状では財務ハイライトが閲覧できるだけの状態となっている。今後は、ある程度の情報開示がされるものと予想はされる。

本資料における個別銘柄に関する注意事項

- ・ EPS・BPS・株主資本比率の計算の元となる、純資産・総資産・株主資本は、各決算期末時点の会社公表数値を用いている。発行済株式数は、自己保有株を含まない。また、株式分割・公募増資・自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。
- ・ 一株当りの配当は、株式分割・公募増資・自己株買い入れ等を必要に応じて過年度を含めて修正している場合がある。

その他の重要な注意事項

本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資対象となる有価証券の価値や投資から得られる収入は、証券価格の変動のほか、発行体の経営・財務状況の変化、金利や為替相場の変動やその他の要因によって変化する可能性があり、投資額を下回る場合があります。また過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料の著作権は当社に帰属し、その目的のいかんを問わず無断で本資料を複写・複製・配布することを禁じます。